

地域みんなであそび隊

～ほうかご子どもあそび隊～

浜田市立石見公民館

1、石見公民館の概要

石見地区は、浜田川流域及びその周辺を含む市街地から中山間地域まで広範囲にわたり、人口は15,900人、世帯数は6,890戸で109町内20の自治会がある。浜田市立第一中学校の校区がほぼ管内となっており、小学校は大規模校3校・小規模校2校がある。学校統合により中山間地域の小学校が閉校となった3地区には分館が設置されている。

少子高齢化が進むなか、高齢者の学び・健康づくり、そして青少年育成等を重点課題として位置づけ、高齢者向けの事業や子ども向けの事業に積極的に取り組んでいる。さらに全地域対象の各種スポーツ大会を毎年開催し、広域でのふれあいの機会確保に努めている。本館並びに3つの分館で地域の実情とニーズを把握しながら、生涯学習の推進に取り組んでいる。

2、事業の概要

(1) はじめに

実証事業名：放課後子どもプランを通して、地域を巻き込こんだ取り組みを定着させ、地域で子どもを育む土壌作り、地域の教育力向上を目指す。

実証事業テーマ：「地域で子どもを育むネットワークを組み上げる」

公民館を核にして子どもを支援する大人がつながっていく

事業適応の経緯

石見地区では、平成18年10月から公民館を拠点にふるさと教育ネットワーク会議を月1回開催していたが、19年度から放課後こどもプラン事業がスタート。両事業に共通する目標である「地域ぐるみで、子どもの育ちを応援しよう」という願いから、既存のネットワーク会議を軸に放課後子どもプランも推進してきた。そして地域の教育力の醸成のために本プログラムを導入した。

石見地区における地域の教育力についての課題

- ①石見地区の中心市街地では放課後、子どもたちが思い切りからだを動かして遊ぶ空間が少ない。
- ②地域における異年齢集団での遊びの機会が少ない。
- ③中学生は、学校・部活中心の生活で、地域に関わる機会がとても少ない。
- ④地域で子どもの育ちを応援していこうという大人がまだまだ少ない。また子どもに関わる活動をしていたとしてもつながりが薄い。

課題解決に向けた取り組みの方向性

- ①小学校を拠点とした居場所づくり（放課後あそび隊）の継続と充実
- ②放課後あそび隊のアンケート実施（評価及び啓発のため）
- ③放課後子どもプランについての啓発と参画者の増員 情報提供
- ④ふるさと教育ネットワーク会議の参加メンバーの拡充と継続
- ⑤青少年ボランティア学習の推進

(2) 具体的な取組

①放課後あそび隊

月1～2回 石見地区の3小学校（石見小、三階小、松原小）の放課後、学校を拠点に地域の大人、中学生が参加し、参加申込のあった児童及び児童クラブ児童（希望者のみ）との遊びを実施。3校で計19回実施、延べ約1,200人の児童が参加した。多くの児童は繰り返し参加するようになり、スタッフと顔見しりの関係ができつつある。遊びの内容は、中学生がリーダーシップをとりながら、子どもたちで遊びを決めて自由に遊んだ。外では、鬼ごっこ・だるまさんが転んだ・サッカー・野球など。体育館では、縄跳び・大まわし・バスケット・ドッジボールなど体を使うものや、地域の大人と工作（紙の笛・飛行機・牛乳パックの紙トンボ等）をした。



②参加児童の保護者へアンケート実施

放課後あそび隊に参加した小学生の保護者に向けてアンケートを実施し、あそび隊への評価と、子どもを取りまく環境の把握に努めた。

子どもの評価は？	満足～やや満足	94%
保護者の評価は？	大変良い～良い	96%
中学生参加の評価は？	参加してほしい	96%
保護者の参加意思は？	参加したい	72%

あそび隊への評価は極めて高く、なかでも外遊びができることや中学生を含めた異年齢集団での遊びに高い関心が寄せられた。

保護者に参加意思はあるが参加でき難い理由のほとんどが仕事の都合となっている。

③地域の支援者を募集

石見公民館を利用している生涯学習のグループに向けて、あそび隊サポーター募集チラシを配布し、あそび隊への参加をよびかけたところ4名の方が新たに加わった。また保護者の中にも、数回あそび隊に参加された方もあった。

④ふるさと教育ネットワーク会議

毎月1回、18:30から21:00まで、公民館で会議を開催した。メンバーは公民館長主事、地域住民（公民館利用者）、小中学校のふるさと教育担当の教師、浜田市地域教育コーディネーター、石見地区の放課後こどもプランコーディネーター、浜田のまちの縁側（子どもの居場所づくり事業）、NPO法人浜田おやこ劇場など10名前後が集い、放課後あそび隊の運営、中学校の総合学習の支援、アンケート等について検討した。

⑤放課後あそび隊における中学生ボランティアの参画

放課後あそび隊の開催19回のうち、5回は浜田市立第一中学校の1年生がクラス単位で総合学習の授業として参加した。事前に児童とどんな遊びをするか準備をし、当日は積極的に児童に関わっていた。それ以外の日は原則部活動のない日を選び、担当教師から声をかけていただき、毎回10名～20名の参加があった。繰り返し参加する者も多く、児童とも顔見知りになっていった。

一中校区の中で、中学生が徒歩で参加することが難しい中山間地の小規模小学校に、福祉バスを借りて、一中吹奏楽部の生徒が音楽を通じて児童と交流できるような機会を設けた。実際に楽器に触れ、中学生から吹き方を教えてもらって、音が出て嬉しそうにしていた児童、演奏があると聞いて駆けつけてくださった地域の方、小規模校ならではの暖かい交流の時間をもてた。

⑥中学校の総合学習への支援

放課後あそび隊に総合学習で参加した中学1年生に対して、遊びを通じて、人と関わること、協力すること、コミュニケーションを深めていくことなど、子どもにとって遊びの大切さや、楽しさをあらためて知ってもらいたいと考え、東京在住の演劇家（昔ばなし、語り、コミュニケーションに関するワークショップ等）である横山貴央氏を迎えて、総合学習2時間をつかったワークショップを開催した。1年生全員と担任の教師、地域の大人、総勢約200名が参加した。いろいろな遊び、表現遊びをすることができた。

3、事業の成果

(1) 児童にとって

放課後あそび隊についての成果はすぐにでるものではないが、放課後家で一人でゲームをして過ごすことの多い児童や体を動かすことが少ない児童は、校庭で中学生と思いきり走り回り、異年齢集団のなかで楽しい放課後を過ごすことができた。保護者に対するアンケートからもこういった機会を望む意見を多く寄せられた。中学生のお兄さん、お姉さんに甘えたり、また時にわがママが過ぎれば叱られたり、遊びを通じて人との関わり方を学ぶ機会にもなった。また地域の大人とも顔見知りになり学校外

で出会っても自然と挨拶ができる関係づくりにも繋がった。家庭ではゆっくりと使い方を学ぶ機会も少ないカッターなどの刃物を使う工作を取り入れることによって、新しいことに根気よく挑戦する機会を地域の大人の支援によって得ることができた。

(2) 中学生にとって

放課後あそび隊でのボランティア活動を通じて、小学生の子どもたちに頼りにされ、小学生たちが自分たちと遊ぶことを喜んでくれたことで、自己有用感を育む機会となった。ボランティアは本来、自分からすすんでするものであるが、中学生の年代では多少なりとも学校や地域の側から背中を押すことで参加する生徒もいる。しかし、一度参加すると生徒自身が何らかのやりがいや楽しさを感じ、初参加以降続いて参加する生徒も多くあった。したがって、1年生が総合学習の授業でボランティア学習のひとつとして全員が経験できたことはよかった。横山氏によるワークショップでは、人と協力をしないと楽しい遊びはできないことや、遊びを通じて新しい友達ができたこと、体験した遊びを放課後あそび隊でやってみたいと思ったことなど、それぞれが遊びの大切さ、楽しさを知ることができた。

(3) 地域にとって

3年間実施してきた子どもの居場所づくりから放課後子どもプランという新たなステージとなり、限定された居場所ではなく、地域でより多くの大人が関わることによって、地域全体が子どもたちにとってのこころの居場所になるようにとの願いのもと、放課後子どもプランに関わる大人の人材発掘が多少なりとも進んでいる事は評価できる。中学生に対して日頃、まちで出会っても声をかけにくいのだが、あそび隊でいきいきと活躍している姿に触れ、まちで出会ったときも肯定的な声かけをしていくきっかけとなっている。

4、課題と今後の取組み

(1) 放課後あそび隊

放課後あそび隊は今後も児童と保護者の責任において参加してもらうことを周知すると共に、受付方法を簡素化して継続する。

アンケート結果を含め、本事業の目的をPTAにも伝えて保護者の参加を促す。中学生が参加できる日のみだと、回数が限られるので毎週月曜日はいずれかの小学校で活動ができるように、地域の支援者を増やしていき、継続的な関わりを目指す。提供できる工作、遊びのメニューも充実していきたい。

(2) ふるさと教育ネットワーク会議

ふるさと教育ネットワーク会議のメンバーは新たに前述の4名が加わったが、今後状況に合わせて子どもに関わる多様な団体の参加もよびかけていきたい。

放課後子どもプラン以外にも総合学習の取組みなど学校教育への支援もあわせて取り組んでいきたい。次年度も中学校の総合学習で放課後あそび隊への参加を継続する予定である。

(3) 長期休暇中の児童や特別な支援を必要とする児童のニーズを探り、それに対して 以上